

「事務所で使用しているのは、多くの設計事務所が使用しているA3レーザーカラー複合機です。すべての資料はA3を意識して作成しなければなりません。『緑』に軸足を置く場合、外構や街並みまでを図面に描き込み、かつ、建築の内部空間を詳細に描くのが理想的ですが、A3での印刷を想定すると、クライアントや施工者に伝えたい詳細やこだわりを描き込むことは難しい」。

「表現できない部分は、言葉で補う必要が生じます。大きな模型の下地を制作する場合も、拡大した図面を部分的にA3で印刷し、それを丁寧につなぎ合わせなければなりません。写真などを印刷する場合は、印刷のクオリティが悩みの種となっていました」(古谷俊一氏)。

このような問題を解決するには、A1などにも対応可能で、印刷のクオリティが高いインクジェットの大判プリンターを導入することが有効である。だが、何かと手狭な設計事務所では設置スペースの確保に苦労が付きもの。事務機器としてのプリンターが無機質な印象を与え、インテリアにこだわる設計



鉛筆のみで丁寧に仕上げられた手描きパースのスクアンデータ、半光沢紙で出力。ディテールを見ると、壁面に描かれた影の微妙な筆致(濃淡)を忠実に再現していることが分かる



このイラストは、ペンでトレースした平面詳細図の上に着色したもの。それをスキャンし、データを半光沢紙で出力。「レーザーカラー複合機で出力したときよりも、微妙な色のグラデーションを拾ってくれて、より美しく見えます。レーザーカラー複合機よりも、多少明らめに印刷されます。好みによりませんが、元々のイラストを濃い目に着色するとよいかもしれません」(古谷氏)

## Printing



日本空間デザイン賞2020/KUKAN OF THE YEARを受賞した「深大寺ガーデンレストランMaruta」のプレゼンボードを、A1サイズの半光沢紙でカラー印刷(4色)し、それを張り合わせた。展示会にも使用可能な大きなパネルを手軽に制作できる。写真の画質も申し分ないので、プレゼンボードの制作を外注する必要がなくなる

## Furniture



スレンダーなスタンドを立てた状態の「HP DesignJet Studio A1」。用紙スタッカーに加えて、スタンドには見せる収納として使用可能な布製の棚を備えている。今までの大判プリンターとは一線を画す「家具」のような存在感だ。筐体には再生プラスチックを使用している [※]



天板の表面を覆う木目調のシート。木目に合わせて微妙な凹凸があり、手で触れると、本物の木のように感じられる



「レーザーのカラー複合機は接客中にあまり見られたくないで、打ち合わせスペースから見えない場所に置いています。『HP DesignJet Studio A1』はむしろ目立たせたいところ。実際に、事務所に来てくれた人の多くが興味をもってくれるので、会話のきっかけにもなります」(古谷氏)



「HP DesignJet Studio A1」のスタンドを外して合板製のデスク上に設置。外形は1,013×555mmで、A1対応の大判プリンターとしては非常にコンパクト。木質系のインテリアやインドアグリーンとの相性も抜群

事務所にとっては、ノイズとして敬遠されてしまいがちである。こうした背景をもとに開発されたのが「HP DesignJet Studio」(日本HP)である。「家具」として設計された画期的な大判プリンター。最大でA0の印刷に対応可能なほか、マットなホワイトと木目調天板の組み合わせは、まさに日本人好みの木質系家具。清潔感のある空間やインドアグリーンとの相性もよい。スタンドを外して使うことも可能なので、置き場所の制約からも解放される。

今回、古谷氏が使用したモデルはA1対応の「HP DesignJet Studio A1」。実際に使用してみるとの感想を伺ってみると「A1で、しかも色鮮やかに美しく出力できる点がとてもよいです。建築・外構の全体像と詳細を1枚の大きな画面で同時に把握しながら検討できるので、クライアントや施工者との共通認識も得やすくなると思います。『家具』のように空間になじむので、インドアグリーンのある私の事務所にぴったり」とのこと。「HP DesignJet Studio」は、まさにデザインにこだわる設計事務所にも最適だといえるだろう。

※ 「HP Designjet Studio」は大判プリンターとしてカーボンニュートラル認証を初めて受けた製品。2020年グッドデザイン賞も受賞

古谷デザイン建築設計事務所は、植栽やランドスケープなどの『緑』を軸に据えた建築デザインを得意とする設計事務所。建物内部を含めて、作品のすべてに『緑』の要素が生かされているといっても過言ではない。こうしたデザインをクライアントに分かりやすく提示するため、図面に加えて、模型やベース(CG・手描き)の制作にも力を入れている。しかし、これまではプリンターの機能が制約となり、提案内容をうまく相手に伝えることに苦労していたという。

## “家具”のような大判プリンターを使う。

古谷俊一 (古谷デザイン建築設計事務所)  
×  
HP DesignJet Studio (日本HP)



詳しい資料はこちらから

写真=水谷綾子

### 古谷俊一 [ふるや・しゅんいち]

建築家、造園家。1974年東京都生まれ。'97年明治大学理工学部建築学科卒業。2000年早稲田大学大学院石山修武研究室修了、同年IDÉE、'06年UDSを経て、'09年古谷デザイン建築設計事務所設立。'20年京都芸術大学客員教授。代表作に「深大寺ガーデン」「東京クラシック 森のクラブハウス 馬主クラブ棟」「渋谷MODI」「大森ロッジ 運ぶ家・インターバルハウス」。日本空間デザイン賞大賞、環境・設備デザイン賞 最優秀賞、日本建築設計学会賞など受賞歴多数。著書に「みどりの建築術」(樞出版社)